
みかんは熱い？

野鶴善明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みかんは熱い？

【Nコード】

N2200I

【作者名】

野鶴善明

【あらすじ】

「みかんは『熱い』。だから、風邪をひいた時は食べちゃだめ」。そんな考え方をする人に出会ったことがありますか？ 外国には日本人とは違う方法でひきはじめの風邪を治そうとする人たちがいるんです。旅先での経験を書いたエッセイ。

ずいぶん前のことだけど、バックパッカーになって中国を旅していた頃、ある町で風邪をひいてしまった。鼻がぐずついて、くしゃみを連発してしまう。旅先で風邪にかかったのでは、なにも楽しみない。ひきはじめのうちに治してしまおうと思って、大きめのビニール袋いっぱいのみかんを買ってきた。たしか、五元（約七〇円）もしなかったと思う。

安宿のロビーでみかんをほお張っていると、

「みかんなんか食べちゃだめじゃない」

と、仲良くなった地元の友だちがびつくりした様子でとめる。

「なんで？ 風邪をひいたからさ」

日本人同士の会話なら、これで相手はわかってくれる。ビタミンCは風邪のひきはじめにいい。日本人なら当たり前に知っている「常識」だ。だが、相手が中国人だと日本人の「常識」はなかなか理解してもらえない。

「だから言ってるのよ。風邪なんですよ」

彼女は怪訝そうに、あきれたように、まるで僕が毒でも食べているみたいにこちらを見る。

「どうしてだめなの？」僕はきいてみた。

「みかんは『熱い』のよ」

「なにそれ？」

「だから、みかんは熱いの。風邪をひいてるのにそんなものを食べたら、ますます悪くなっちゃうじゃない」

彼女は自信たっぷり言うけど、こっちはちんぷんかんぷん。僕はみかんを触った。べつに熱くない。常温だ。しかたがないから、
「それじゃ冷蔵庫に入れて冷やすよ」

と、冗談で返したら、彼女は怒ったような顔をゆるめてぷっと吹き出す。

「そんなことしても、熱いものは熱いの。冷たくならないわよ」

「ねえ、わからないんだけどさ、説明してくれない」

相手を変だと決めつけるのは簡単なことだけど、僕は相手がなにを考えているのかを理解してみたい。彼女はなにやら楽しそうにほほえむ。こんな人に初めて会ったという好奇心が顔に現れている。彼女は、なにも知らない弟をさとすように教えてくれた。すっかり、姉さん気取りだ。

「食べ物には、熱いものと冷たいものがあるの。温度が熱いのか、冷たいのかってことじゃなくて、その食べ物の『性質』が熱いか、冷たいかってことなの。風邪をひいてる時は、体が熱を出して熱くなっているでしょ。熱い性質のものを食べたりしたら、体が余計に熱くなってしまっわ。火に油を注ぐようなものなのよ。だから、冷たい性質のものを食べて体を冷まさないといけないの。そうやって体内のバランスをとって治すのよ。わたしは小さい時からそう聞かされて育ったわ。中国人なら誰でも知ってる中国医学の常識よ」

「日本でいう漢方か」
僕は納得した。

ライチ、ねぎ、ニラ、しょうが、にんにくといったものが熱い性質のもので、梨、スイカ、トマト、きゅうり、なすび、にんじんといったものが冷たい性質のものらしい。

冬は寒いのでなるべく熱い性質のものをとるようにして、体を温める。夏は暑いので冷たい性質のものをとって体を冷ますようにする。ただし、ポイントはバランスなので、冬だからといって熱い性質のものばかり食べていると、体調を崩して風邪をひいたりしてしまうから注意が必要。また、吹き出物は体の熱が火をふいた結果なので、そんな時には冷たい性質のものを食べて体を冷やすのがいいそう。とにかく、バランスが肝心。

ただ、いくら掘り葉掘りたずねてみても、なぜその食物の性質が熱いのか、冷たいのかは、彼女は説明できなかった。実用的な知識としては知っているけど、その理由まではわからないらしい。も

つとも、中国医学は、医者があれこれと薬草なんかを試しながら経験を積み重ねて築いた技術なので、体系自体にあやふやなところがある。それをこまかく説明してくれと一般の人にいつてもむずかしいのかもしれない。それに、家庭の医学なのだから、実用的なことを知っていればそれで十分だ。

彼女とのやりとりでわかったのは、中国人は日本人とは違った原理にしたがって暮らしているということだ。風邪をひいたらビタミンCで撃退する。これは西洋医学の原理。近代科学の知恵だ。でも、中国医学は違う。風邪をひいたら性質の冷たいものを食べ、体のバランスをとって治す。これが中国の原理。生活の知恵といってもいいのかもしれない。

どちらが正しいのかは、わからない。

西洋医学で治せなかった病気を中国医学でばっちり完治させた例はたくさんあるし、逆に中国人でも「中国医学はペテンだ。西洋医学のほうが絶対治る」と言っただけで自分の国の医学を信じない人もいる。小説家の魯迅は、幼い頃、お父さんが病気で漢方医にさんざん高い薬を買わされたけど、結局、病気は治らずにあの世へ逝ってしまった。それがもとで西洋医学を志すことになった。

「みかんが熱いだなんて、考えたこともなかったな」

僕は、黄色と緑のまだら模様のみかんをしげしげと眺めた。そんなふうなものを見方をする人たちがいるとは、思いもよらなかった。

世界には、自分とはまったく違った考え方をする人たちがいる。そう思うとわくわくしてきた。自分とは違う考え方に触れたり、自分が信じてきた「常識」とはまったくかけはなれた異国の「常識」に触れること、ここに外国を旅したり、外国で暮らす意味がある。醍醐味がある。自分の狭い「常識」を疑ってはじめて、自分自身を突き放して客観的に物事をとらえられるようになるし、考え方の幅も広がるからだ。学ばないといけないことが、まだまだたくさんある。

「友だちとわけて食べなよ」

僕は、みかんの袋を彼女に渡した。郷に入りては郷に従え。ここは中国式で風邪を治すでしょう。

「ありがとう。それじゃ、わたしの薬をあげるわよ。家へ取りに帰るわ。ちよつと待ってて。いい薬があるの」

「漢方薬？」

僕は嬉しくなった。

「西洋医学の薬よ。そっちのほうが治りが早いわ。早く治りたいでしょ」

彼女は天真爛漫だ。僕はまたまた混乱した。
どっちやねん？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2200i/>

みかんは熱い？

2010年10月8日13時28分発行